

平成 24 年度研究成果情報

課題名 : DNA マーカーを用いたクルマエビ種苗放流効果の検討

[背景・ねらい]

クルマエビは本県有明海の重要魚種の一つであるが、近年、資源の減少が著しい。このため、有明沿岸四県では平成 15 年から共同放流を実施し、有明海のクルマエビ資源の回復を目指している。このような中、より効果的な種苗放流へとつなげるために、DNA 親子判定技術を用いた漁獲回収結果を基に、現在の海域環境に即した放流技術(サイズ、時期及び手法)を検討した。

[成果]

- 放流サイズ(10mm 及び 30mm)と放流時期、放流時間帯(昼、夜)の放流効果を比較するため、佐賀県海域においてクルマエビ種苗放流を実施し(表1)、佐賀県内での漁獲回収率を比較した。その結果、平成 24 年度の回収率は、放流サイズについては、10mm サイズでも一定の放流効果があること、放流時期については、早いほど効果が高いことが推測された。放流時間帯による放流効果の違いは、今年度の調査結果からは不明であった(図 1)。

表 1 平成 21～24 年における佐賀県海域におけるクルマエビの放流状況

(万尾)				
	10mm	30mm (四県共同 放流事業)	30mm	50mm
平成21年		136	100	143
平成22年		137	100	138
平成23年		136	100	144
平成24年	2,000	136		
合計				2,136

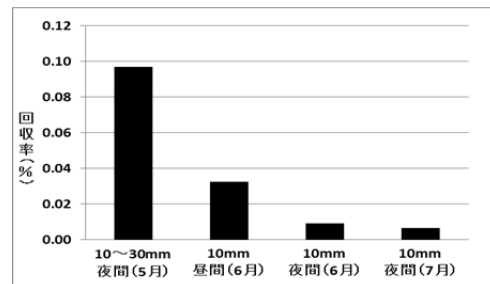


図 1 平成 24 年に放流したクルマエビの佐賀県内での漁獲回収率

[課題・問題点]

- 10mm サイズ種苗について放流事例が少ないため、放流効果を再検証する必要がある。
- 昼間と夜間の放流効果の差を再確認する必要がある。

[今後の対応]

- 平成24年度に引き続き、10mm 及び 30mm サイズ種苗の放流を昼、夜間に放流し、放流効果を再検証する。

[その他]

研究期間:平成 21 年～24 年度

研究担当者:資源研究担当 佃 政則

公表:平成 25 年日本水産学会(春)口頭発表